

H30年度 看護職員の負担軽減及び処遇の改善計画(H29年度の実施状況と評価を含む)

看護職員の負担軽減及び処遇の改善に関する実施事項と今後の方針

項目	H29年度の実施計画	H29年度の実施状況及び評価	H30年度の実施計画
看護職員と他職種との業務分担	<p>①薬剤師・配薬、持参薬のリスト化を継続する。 ②臨床検査技師・外来患者の採血を継続する。 ③臨床工学技士・特定の医療機器の管理を継続する。 ④物品管理課の職員・予定入院のCSセットの説明を継続する。</p>	<p>①薬剤師・継続して実施した。また、予定入院の患者に対する持参薬の確認は、これまで入院後に行っていたが、H29年度から薬剤師が入院前に行うようになり、より効率化できた。 ②臨床検査技師・外来患者の採血業務は継続して実施した。 ③臨床工学技士・特定の医療機器の管理を継続して行った。 ④物品管理課職員・予定入院のCSセットの説明を継続しておこなった。</p>	<p>①薬剤師・配薬、持参薬のリスト化を継続する。感染リスクの高い患者に対する中心静脈栄養の無菌性剤を始めてゆく。 ②臨床検査技師・外来患者の採血を継続する。 ③臨床工学技士・特定の医療機器の管理を継続する。 ④視能訓練士・病棟における眼科患者の診療介助など。 ⑤物品管理課の職員・予定入院のCSセットの説明を継続する。</p>
	<p>⑤事務員・看護管理者(主として部長)の事務作業補助の継続と病棟師長の事務作業補助をする者の検討をおこなう。 ⑥看護補助者・業務分担の検討と推進を継続する。具体的には次の通り。 さくら病棟では、単発的に行っていたおむつ交換や食事介助を補助者のルーチン業務にする。また、補助者の適正配置(チームへの)をすすめ、業務の拡大を図る。わかば病棟では、チーム内へ補助者を配置するために、業務の見直しから検討する。当直は継続しておこなっていく。 アイセンターでは、手術と入院の予約は引き続き補助者でおこなうようにする。 ⑦その他・ロボット(ペッパーくん)の活用(手術の説明など)を検討する。</p>	<p>⑤事務員・H29年度の配置に対して管理者の事務作業の減少に寄与しているものと評価する。事務員の勤務時間の増加により、病棟師長の事務作業補助も一部行えるようになってきた。 ⑥看護補助者・ ・さくら病棟(地域包括ケア病棟)では、補助者を看護師のチームに日替わりで配置し、次の業務を補助者のルーチン業務とした。入浴介助時の更衣、おむつ交換、吸引患者の物品補充・交換、薬杯交換、また、必要に応じて患者の見守り・食事介助・散歩への同行。 ・わかば病棟(急性期病棟)では、補助者2名で入浴介助を予定していたが、患者の把握や指導も目的とし、看護師1名・補助者1名とした。補助者のチーム内の配属は準備段階で、H29年度は全ての患者把握のため、情報共有必要患者の申し送りを強化した。当直体制は継続して行っている。 ・アイセンターでは、手術と入院の予約を引き続き補助者で行っている。 ⑦その他・ ・ペッパーくんの活用を検討したが、導入には至らなかった。 ・外国人患者向けに、通訳タブレットを外来に設置した。 ・リハビリ職員が入院患者向けのパンフレットを作成し、これまで外来看護師が行っていた患者への説明を行うようになった。 ・H30年4月に発足する予定の患者支援チームを立ち上げる準備を行った。</p>	<p>⑥事務員・看護管理者(主として部長)の事務作業補助の継続と病棟師長の事務作業補助について検討をおこなう。 ⑦看護補助者・業務分担の検討と推進を継続する。具体的には次の通り。 ・さくら病棟(地域包括ケア病棟)では、補助者を看護師のチームに日替わりで配置し、次の業務を補助者のルーチン業務としたH29年度の体制を継続していく。入浴介助時の更衣、おむつ交換、吸引患者の物品補充・交換、薬杯交換、また、必要に応じて患者の見守り・食事介助・散歩への同行。 ・わかば病棟(急性期病棟)では、補助者のチーム内の配属について、検討をすすめていく。当直体制は継続して行っていく。 ・アイセンターでは、手術と入院の予約を引き続き補助者で行っていく。 ⑧その他・ ・IT機器の活用検討。まずはH29年度に導入した外国人患者向けの通訳タブレットの評価をおこない、その費用対効果をみていく。 ・リハビリ職員が入院患者向けのパンフレットを作成し、これまで外来看護師が行っていた患者への説明を行うことの評価をおこなう。 ・患者支援センターの本格的な運用開始。</p>

H30年度 看護職員の負担軽減及び処遇の改善計画(H29年度の実施状況と評価を含む)

看護職員の負担軽減及び処遇の改善に関する実施事項と今後の方針

項目	H29年度の実施計画	H29年度の実施状況及び評価	H30年度の実施計画
安定的な欠員補充と定着促進	<p>①採用条件の緩和を継続しておこなう。 具体的には、短時間勤務希望のアルバイト、パート、准看護師も応募可能とする。 ②インターンシップ制度の希望受付を継続する。 ③リクルート活動の検討を継続しておこない、実行する。 今年度はHPやフェイスブックで新人看護職員の研修が充実していることをアピールすることを計画している。 ④院内託児施設の利用を維持する。 ⑤教育関連の整備と充実を図る。(教育資源の利用促進、キャリアアップのための制度の充実など)</p>	<p>①採用条件の緩和の継続(短時間勤務希望のアルバイト、パート、准看護師も応募可能)し、看護師(短時間勤務希望のアルバイト雇用)は5名の採用に至った。 ②インターンシップ制度は継続しているが、H29年度の希望者は0名であった。 ③リクルート活動を検討し、新人看護職員研修の様子をホームページ上で公開、看護師・看護学生対象の就職説明会を、H28年度よりも早い時期に行った。 ④院内託児施設の利用はH29年度も高い利用率であったので、現状の運用を維持する。 ⑤教育関連の整備として、職員図書室に情報検索や資料作成用のパソコンを一台増設した。活発に利用されている。また、人事制度において認定看護師の専門職コースを新設し、看護職員のキャリアラダーの見直しを行った。</p>	<p>①採用条件の緩和を継続しておこなう。 具体的には、短時間勤務希望のアルバイト、パート、准看護師も応募可能とする。 ②インターンシップ制度の希望受付を継続する。 ③リクルート活動の検討を継続しておこない、実行する。 ④院内託児施設の利用を維持する。 ⑤教育関連の整備と充実を図る。(教育資源の利用促進、キャリアアップのための制度の充実など)</p>
正職制度の検討	<p>①新たな人事制度の開始をH30年度からできるよう、準備をすすめる。</p>	<p>①看護部の看護職員に限り、夜勤なしの正職員制度を検討し、H30年4月より運用開始予定。</p>	<p>①H30年度の新たな正職員制度の評価をおこなう。</p>
多様な勤務形態	<p>①夜勤専従看護師の院内募集(1ヶ月単位)を継続する。 ②夜勤専従看護師を院外に募集することを継続する。 ③配属先はアイセンターのみと限定した看護師を募集することを継続する。</p>	<p>①夜勤専従職員を継続して募集したが、新規の希望者は0名(H29年度)であった。 ②夜勤専従看護師を院外に継続して募集したが、応募は0件であった。 ③配属先はアイセンターのみと限定した看護師を継続して募集したが、応募は0件であった。</p>	<p>①夜勤専従看護師の院内募集(1ヶ月単位)を継続する。 ②夜勤専従看護師を院外に募集することを継続する。 ③配属先はアイセンターのみと限定した看護師を募集することを継続する。</p>

H30年度 看護職員の負担軽減及び処遇の改善計画(H29年度の実施状況と評価を含む)

看護職員の負担軽減及び処遇の改善に関する実施事項と今後の方針

項目	H29年度の実施計画	H29年度の実施状況及び評価	H30年度の実施計画
夕方外来の縮小	①外来診療体制の見直しをおこなう。 具体的にはH29年4月より昼救急と夕方外来(火曜日と木曜日)の対象患者を救急患者に集約していく。	①外来診療体制の見直しをおこない、H29年4月より昼救急と夕方外来(火曜日と木曜日)の対象患者を救急患者に集約することを実施した。結果として、他の診療時間帯に患者が移動したため、全体として患者の減少は見られず、特に大きな問題はなかった。昼救急と夕方外来の縮小により、看護職員の負担軽減に寄与していると考えられる。今後もこの体制を継続してゆく。	①H29年度の外来診療体制の継続。
休暇の見直し	①リフレッシュ休暇(年次有給休暇と別枠の休暇)付与を継続する。	①リフレッシュ休暇(年次有給休暇と別枠の休暇)付与を実施し、休暇取得の促進になっていると考えられる。	①休暇取得促進に関して全体的な見直しをおこなう。
育児短時間勤務の見直し	①育児短時間制度(小学校就学前までの子が対象)を維持する。	①育児短時間制度(小学校就学前までの子が対象)を継続して実施している。	①育児短時間制度(小学校就学前までの子が対象)を維持する。
病院行事の見直し	①土曜日の行事(研修など)を増やさないよう計画的に研修などを予定する。 ②全体朝礼(月2回)を維持または適切な変更を検討する。	①土曜日の行事(研修など)を増やさないよう計画的に研修などを予定することを継続して実施している。 ②全体朝礼(月2回)を継続して実施している。	①土曜日の行事(研修など)を増やさないよう計画的に研修などを予定する。 ②全体朝礼(月2回)を維持または適切な変更を検討する。
職場環境の整備	①スタッフエリアの環境整備は継続して検討していく。	①スタッフエリアの環境整備は継続して検討し、H30年5月にオープンする予定の南館増築棟2階に、スタッフの休憩室を増設することとした。 また、南館増築棟3階にシャワー室を設置し、あやめ病棟入院患者の動線を短くすることで、看護職員の案内誘導の負担を軽減することを検討し増設予定である。 最後に、アイセンター手術室の物品を収納する棚の増設により、看護職員の物品配送の負担を軽減することを検討し、増設予定となっている。	①スタッフエリアの環境整備は継続して検討していく。